

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073400295		
法人名	有限会社 笑苑		
事業所名	グループホーム 笑苑 (別館)		
所在地	〒818-0122 福岡県太宰府市高雄1丁目3664番地258 TEL 092-918-0808		
自己評価作成日	平成30年06月27日	評価結果確定日	平成30年09月03日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年07月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの個性を大切にしていきいきと過ごしていただける様、理念に沿ってケアをすると共に、ご家族、職員全てを含めて一つの大家族として、馴染みの関係を構築していけるように努めている。新人職員が多い中、いきいきと、やりがいのある仕事として利用者様と接することが出来る様に、職員同士も『和気あいあいとした環境で楽しく仕事が出来るように』をモットーとし、自由に意見交換や声掛けも合いもできるような環境づくりに努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えるところに掲示すると共に、毎朝申し送りの前に、全職員で唱和している。また、理念に基づいたカンファレンスを月2回実施し実践できているか、モニタリングしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週、地域のパトロールに参加。地域の行事には利用者様と一緒に参加させて頂いたり逆に当施設の行事の際には地域の方々がお手伝いに来て下さるなど、日頃より交流を深めている。ボランティアや慰問等積極的に受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して理解や支援方法を発信し続けている。また、施設長が認知症介護指導者でもあり、RUN伴に参加させて頂いたり、地域の方々の協力の元、認知症サポーター養成講座や模擬訓練などの地域の方々に発信し続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、行政・家族代表・地域代表などに参加して頂き、利用者様の生活状況の報告及び、地域交流の推進へのご協力をお願いすると共に、意見交換を行い、その連携についても話し合い認知症への理解を深めて頂く様に努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	健康福祉課の方には運営推進会議に参加して頂き施設の状況や地域交流の実施についても報告できている。また不明な点等は電話等でも相談させて頂いている。地域包括支援センターの職員の方はお尋ねがある時のみ電話等で対応して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し職員同士で共有している。不穏時には散歩や声掛けに配慮し気分転換を図るなど、具体的な対応の仕方を話し、職員の見守りとケアで平穏に暮らして頂ける様取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、参加していない職員には報告書を回覧し周知するよう徹底すると共に、内供研修も実施している。日常生活においても職員間で話し合いを持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様には成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるので、理解を深めるために参考資料を常に事務所に置いている。制度については折に触れ施設長が学びを提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項説明書・契約書を読み説明を行っており、疑問点があれば質問を受け理解・納得して頂けるまで説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を聞く機会を設けると共に面会時や家族会でも意見を頂いたり、運営推進会議で頂いた意見なども反映させるように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時、月2回のカンファレンスを含め介護の合間にも、日常的に話を聞く機会を設け意見や要望、アイデアを吸い上げるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりが仕事にやりがいを持てるように、係や担当を決め実践できるようにお互いが協力できる体制づくりに努めている。有給の利用や退社時間の厳守を推進している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	10名中8名が新入職員であるが、採用にあたっては何の障壁もなく希望を殆ど受け入れている。また、職員同士お互い様の気持ちで各々の事情を配慮した勤務作りに努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎日理念と目標を唱和し全職員が自覚し実行する様努めており、カンファレンス等でも確認し合っている。人権学習や接遇に関する研修にも積極的な参加を促し受講者による内部研修実施により、全職員が周知できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制づくりの中で、できるだけ参加できるように配慮し、法人内外の研修への参加を促している。各職員の希望はもちろんのこと、一人ひとりにあったスキルアップを目指した研修への推進と参加しやすい環境づくりに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全ての職員に研修や勉強会に参加するよう促し質の向上を目指すと共に、全員が交流の機会を持つ環境を作っている。また、毎月のネットワークの会議に参加し、今年度は副議長としてお世話係を担当し、交流の輪がますます広がる事と期待される。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設長・管理者・計画作成担当者が面会を行いご本人様と話し合う時間を設け、考えや不安等を伺い、アセスメントをしっかりと行うようにしている。また、前任のケアマネや主治医、ソーシャルワーカーなどから情報も参考にさせて頂き関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約前、契約時にご家族との時間を設け不安や要望、困りごとを伺うようにしている。ご家族の要望があれば1日～2日体験して頂き、じっくりとアセスメントを行い不安や要望を伺い信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接ご要望を伺うことは必須であるが、施設側から必要と思われる事があれば、受診やオムツ選びなど、ご提案することもあり、ご本人やご家族が安心して頂ける様に最善の方法で対応するよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや居室の掃除、廊下やリビングのモップ掛け、食事の後片付けなど、ご本人の能力に応じた家事などに参加して頂き、協力体制である事を日々意識づけ、家族関係の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真を添え日常の様子を報告し、行事や家族会にはご案内・参加を呼びかけている。外出・外泊の希望があればご家族に本人の意向を伝え実現できるよう願いますこともある。面会時間は制限せず、交流の機会をつくる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前のお住まいの地域の老人会やご近所のお通夜など、ご本人に連絡があれば同行援助をしている。また、病院も入所前にかかられていた主治医は出来るだけ変えない様、受診の援助をしており、入所前の関係が途切れないよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を定期的に変え、利用者様同士で会話ができるように配慮している。また、状況に応じ職員が介入して楽しい雰囲気づくりに努め、大家族としてお互いに支え合える関係の構築を目指している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご主人は退院の見込みがなく退所されたが、奥様は入居されている事もあり、入院中の面会や洗濯、購入品の支援などを続け信頼関係の継続に努めた。立ち上げたばかりのユニットで契約終了の方はいないが、相談や支援に精一杯応じる用意がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取り、日常の会話や状態の中から思いや意向をくみ取ることに努めており、ミーティングやカンファレンスを通して職員間で情報を共有し、ケアに反映するようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネや相談員からの情報提供や、ご本人・ご家族から聞き取りなどにより、基本情報・アセスメントシートを作成し職員間で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が声を掛け合い、見守りを行い、利用者様の逐一の状態を把握するよう努めている。但しご本人のストレンクスを尊重し、必要以上の支援がない様に気を付けている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族の意見、職員や主治医の意見を総合しながら必要に応じて検討会を開催したり、カンファレンスの内容を反映し、計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や情報を職員間で共有し、体調や心身の変化について検討し、必要時には計画を見直し実践に活かすようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診・買い物支援・買い物同行その他、ご本人様やご家族の諸事情を踏まえたうえで、緊急時にも職員体制を変更しながら、随時柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回の地域のパトロールや資源回収への参加、または地域の行事にはできる限り参加させて頂くなど、地域の皆様とのかかわりを大切にしながら過ごして頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人様・ご家族の意向を伺ってから主治医を決めており、入所前のかかりつけ医を希望されれば受診支援を行っている。訪問診療・受診どちらも主治医に日常の情報を提供し適切な医療が受けられるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握し、小さな変化でも看護師である施設長及び主治医（いずれも24時間対応）に報告・相談をしており、安全・安心に過ごして頂けるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめにお見舞いに伺い、その都度看護師やケースワーカーとの情報交換を行うようにしている。また、何かあればすぐに連絡頂けるよう連絡交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末期の方針について理念を踏まえながら説明しご理解を得ている。ご本人やご家族・主治医・施設長・全職員・地域病院の連携室も交えて各ステージで話し合いをすすめながらも取り組み、最終章を迎えられるまで支援する体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予測される場合の対応や事故発生時についての話し合いを設けており、対応時の詳細の行動についても事務所の見えるところに貼り、全職員が慌てずに対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を消防署の協力と指導を得て地域の方々にもお声かけをし実施している。地震・水害に対しては避難場所及び避難経路確認・実施はしている。協力体制は完全ではない。昨年の北部九州災害時には施設長自らが駆けつけた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿って自分らしく過ごして頂ける様努めている。プライバシーや尊厳を守る介護についての研修に参加すると共に、日常に於いてもお互いに声を掛け合ったり、カンファレンスでも話し合うなど全職員で周知徹底するよう努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、コミュニケーションを図り、発言しやすい雰囲気づくりに努めている。うまく表現したり発言できない方は、ご家族から以前の情報を収集し、参考にさせて頂き、日常生活の中から思いをくみ取る努力をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課計画は立てているが、体調や状況に応じ臨機応変に対応し無理のないケアに努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の訪問理美容を助言、利用して頂いている。洋服選びは出来る方は、職員は介入せず、好きに更衣して頂き、薄着や厚着の時だけ声かけするようにしている。ご自分でできない方は付き添い、尋ねながら一緒に用意するようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	『美味ご飯』という施設長の考えから玄米をその都度精米し、畑で育てた無農薬の野菜を使って専門の調理員が嗜好や季節に応じて献立を考えており、皆さん「ここのは美味しい」と言って完食して下さっている。また、お盆拭きなど後片付けも分担している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、食欲低下や水分不足の把握をしており、状態や希望に合わせて特別食を提供するようにしている。また、気分転換にレクの一環として外食の提案もさせて頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、見守り、介助など一人ひとりにあったケアを実施し清潔保持に努めている。また、定期的に歯科医師・歯科衛生士と連携し指導を受け全職員でケアの統一を図っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや尊厳に配慮し、一人ひとりの排泄パターンにあわせた支援を行っている。ほぼ自立でも転倒リスクにある方は必ず付き添い安全・安心に排泄される様、できる限りトイレでの排泄を支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、水分補給・運動の声掛けをし、できる限り薬に頼らない便秘予防に取り組んでいる。排泄状況を記録に残し、一人ひとりのパターンを把握し、看護師である施設長や主治医に随時報告相談し早期に解決するよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回体調や希望に合わせてゆっくりと入浴して頂いている。異性介助をむしろ喜ばれる方が多く利用者様の希望や状況に柔軟に対応し、気持ちよく入浴して頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり心身状態に合わせて、昼夜逆転にならない様、生活リズムが保てるように努めている。就寝時間はご本人の思いに任せて今までの生活習慣を大事にして。居室のベッドは清潔に心掛け気持ちよく休んで頂ける空間になるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身の状態に変化があれば主治医にすぐ連絡できる体制にある。文献を参考に薬の作用・副作用を意識づけると、不明な点は施設長・薬剤師や主治医に確認をとり、全職員が周知するよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一回は必ず皆様と外出する日を設け、気分転換をしていただくようにしている。日頃は散歩やお盆拭きや洗濯物たたみ・新聞折り・縫物など無理のない程度に得意な分野でお手伝いをして頂き、全員に居室の清掃、モップ掛けなどメリハリのある生活に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、ドライブや外食を計画し皆さんと出かけて楽しんで頂いている。必要な物がある時は職員と共に買い物に出掛けることもある。入院のまま退所されたご主人が逝去されるまでの約8ヶ月間、奥様の週1回のお見舞いの際には同行援助を続けさせて頂いた。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。必要時はいつでも預かり金より拠出できるように、入居時に説明している。日頃よりお金の心配はない事を話し安心していただく様支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話して頂いており、取次ぎも行っている。また、本人、ご家族の希望で個人の携帯電話を事務所で預かっており、いつでも対応できるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に限らず日々、清潔清掃を心掛けており、居間では狭いながらも家庭的な雰囲気と安心してのんびりと過ごして頂ける様、季節の物や製作品を飾り、季節を感じながら心地よく暮らして頂ける様工夫を凝らしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いリビングですが、自由に居室との出入りが出来る様支援しているため、一人だけリビングに残られるという時間もあり、職員とのマンツーマンの時間を楽しまれる事もしばしばある。また、時折席替えも行い、気の合う方、気まずい方など配慮するよう支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時及び随時、使い慣れた物や飾りを持ち込んで頂き、ご本人・ご家族・職員も加わり相談しながら、皆で居心地の良い空間づくりに努めている。換気や室温、採光にも気を配るよう職員同士申し合わせている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、自立歩行の方が殆どであり、安全に移動しやすい様、手すりや空間に配慮している。車イスの方には、起き上がり、下股の上げ下ろしをして頂くなど、見守り・声掛け・介助などを個々人に合わせてケアをしている。		